

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム福寿荘Ⅱ 太陽ユニット	評価実施年月日	平成19年6月29日
評価実施構成員氏名	國田利恵 成田法卓 千葉佳恵 大久保可奈 岩崎喜美子		
記録者氏名	國田利恵	記録年月日	平成19年6月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念  1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人理念として「一人を大切に」「支えあう心」「安心して暮らせる社会づくり」がある	
2	○理念の共有と日々の取組み  2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	一人ひとりの思いを大切にしながら「その人らしい生活」ケア理念に基づいたケースカンファレンスを申し送り等にて行っている	
3	○家族や地域への理念の浸透  3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会では法人の理念などにふれ地域との繋りの大切さについて話し合ったり伝えゆく	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい  4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者との毎日の散歩により隣近所の方々から声掛けをしていただく機会が増している	
5	○地域とのつきあい  5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事への参加、運動会やお祭り等への参加等にて交流を図っている	
6	○事業所の力を活かした地域貢献  6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	介護予防教室の開催、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会を行っている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の必要性については研修時に理解済みです。自己評価へは全員で取り組み今後へ生かしていく方針です。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	昨年の外部評価結果についても、運営推進会議の際に参加者に拝見していただき今後の取り組みについて報告をし、さらなる向上に生かしています。	
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	区で行っている在宅ケア連絡会やGH管理者連絡会への参加により取り組んでいる	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等の参加にて学ぶ機会がある	
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごさされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	研修会へ参加し、都度理解を深め、他スタッフへ伝えるようにしている	
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、事業所の理念から対応可能な範囲について説明を行い、利用者の状態など契約解除に至る場合家族等と対応方針を相談している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特定の場は設けていないが、日常的に利用者と接する中で本人の思いについて聞いている(食事の内容や行きたい所、催し等について)		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族が来訪した際に生活記録を読んでいただいている。また、ご家族・スタッフ互いに紀になる点等については口頭にて話し合をしています。ご家族から言いづらい時には家族ノートを利用し意見を頂戴しています。、金銭管理は出納伝票に記入し、定期的に家族に渡している。毎月家族に手紙を出している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会・家族ノート・苦情BOXと意見を聞く場を設けています。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議、ケア会議、管理者会議をもち、職員の意見を埋もれさせないよう努めている		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて柔軟に職員の配置がなされている		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	充分に配慮し異動時期を検討している。必要に応じ勤務調整を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJTの実施(経験年数別) Off-JTへの参加を積極的に行っている	
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ケア連絡会への参加により情報交換や勉強会によるサービスの質の向上を目指している	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	必要に応じて管理や運営者が個別面談を行っている	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は個別職員の業務や悩みを把握し、各自の状況に合わせ環境への配慮を行っている	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談で生活状況の把握に努めている。本人の思いや不安を受け止め安心して過ごしてもらえるような関係作りに努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事業所として家族の要望と本人の意向等を把握し、どのような対応が出来るか事前に話し合っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人や家族の思いや状況の確認をし、速やかに必要に応じたサービスにつなげるようしている		
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	状況に応じて本人が馴染めるよう、家族の協力を得るよう相談している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩であるという考えに基づき、入居者から教えられる機会も多く日常の会話やゲーム等により学びあったり協働している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状況を伝えたり相談することを繰り返してゆくことにより協力関係が深まっている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていくように支援している。	家族への思いを伝えたり来訪時はゆっくり過ごせるよう環境に配慮している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が思いを伝えられない場合、家族を通じて働きかけてもらう		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	場面によって楽しく過ごせる仲間作りを行っている		
32 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	今までの関係はこれからも継続することを伝えつつ、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけている		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声を掛け把握に努めている	○	家族と暮らしたいと望んでいる入居者についてさらに家族と話し合い、本人にとって最良なことを家族と検討してゆきたい
34 ○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートの記入により家族からの情報を伺えるよう働きかけている		
35 ○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	センター方式用いて把握に努めている	○	個々の生活リズムを整え、活動内容をさらに充実できるよう検討してゆく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	職員全体で意見交換やアセスメントを行っている、家族の意向や意見をふまえ作成している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画において家族や本人の意見を取り入れ、必要時には状況の説明や変化を伝え見直しを行っている		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に介護計画の実施を記入、カンファレンスノート利用により個々の状況に対する気づきや工夫を共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	遠方より面会に来る家族や本人の状況に応じて、居室または和室にて宿泊を可能とし生活の様子や現状を把握していただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎年地域の少年少女消防団との交流や地域の会の見学やボランティアを受け入れている	○	ボランティアの継続、さらなる広がりを取り組んでいきたい
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の状況に応じて訪問理容サービスを利用もらっている		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議により情報交換、協力関係を築いている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医は緊急時の受診・往診も可能であり、24時間で対応していただいている。歯科往診も随時対応できている		
44 ○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医が長年に渡り在宅の認知症患者に診療していたこともあり、認知症について知識持っている方です。詳しい専門的な知識が必要の際には大学病院を紹介していただいている。		
45 ○看護職との協働  事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置し状態変化に応じた支援を行えるようにしている		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院を第一に相談し、必要な情報について交換している		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期に向けた対応指針を定めている。意思確認書を作成し、事業所が対応できることを明らかにし説明している		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所の「できること・できないこと」を見極め看護師やかかりつけ医とともに家族を含めチームとして支援に取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人が困ることのないよう必要な情報は事前に先方と交換している		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	直接他者の前で排泄の確認をしたりしてしまうことがある	○	他者に聞こえないよう小声で確認、もしくは別な場所へ移動してから確認することで本人のプライバシーを確保していきたいです。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の症状や理解度にあわせ、場合によっては二者選択にて自己決定を行えるよう個別に配慮している		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩等は個々のペースにあわせ柔軟に対応している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	生活時間帯には在宅時に本人が好んできていた洋服を着用しその人らしいおしゃれを楽しんでいただき、女性の方には化粧をして過ごしていただいている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は個々のレベルに応じた食事づくりを心がけています。準備や跡片づけは無理強いはせず状況や個々の意思により参加していただきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品の希望(飲み物、おやつ等)は本人の好みを把握するよう努めている		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	失敗という喪失感を回避するために尿取りパットは使用しているが、個々の排泄パターンの把握により略トイレで排泄できている		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の意向に沿って入っていただいている。状況に応じてシャワー一浴の対応も行っている		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は安心して休息できる場所が個々によって異なるため、個々にあった休息場所を把握している。夜間帯には場面に応じて添い寝や話し相手になったり等安眠への配慮を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個別の役割について、出来ることを手伝っていただくことで感謝の気持ちを伝える		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在1名の方が手元に小額持っており、買い物等においては自ら支払いを行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	車椅子を利用し、歩行困難な方も戸外に出かけられるよう支援している		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族との連携により遠くの外出は家族に依頼していることが多い	○	職員の勤務を調整しながら外出支援をさらに充実させてゆきたい
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の都合を考慮した上で、いつでも好きな時に電話していただいている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間等についての規制もなく常時面会が可能である		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修の参加や社内研修にて把握すると共に、互いの行動やケアについて確認している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニット出入戸に鍵を付け入りに気付くようしている。また、1階(大地ユニット)との連携により日中は鍵をかけない自由な暮らしを支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通じて利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はフロアにて見守り、状況に応じて居室を訪問し様子を確認している。夜間は物音に注意を配り、安全に留意している		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況や場面に応じて対応している		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスク要因を探り、場面や個人に応じた支援をチームで共有する		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり、いつでも見られるようにしている		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者と共に避難訓練行っている		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	日常の生活の様子をお伝えする際、どのような場面でリスクがしうじるかについて説明し、ケアプランにも盛り込むようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	様子の変化が見られた場合、バイタルチェックを行い、管理者への報告や医師・看護師との連携をとり、必要に応じて医療受診等へつなげている		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬が変更になった場合、処方箋を明らかにし、看護師等と連携をとり対応している		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品を取り入れ、水分を多く摂り、散歩等にて活動性を高め自然排便を促している		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、見守りや介助を行っている。就寝後は義歯の洗浄を行っている		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に嗜好を把握し場合によっては別メニューを作っている。水分の取り方については飲料のみではなくゼリー等も使用し補っている		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)。	入居者は帰所後・職員は出勤時を含めホーム内へ入室した際には手洗い・うがいを行いウイルスの御坊を行っている。(来訪者も同様) インフルエンザは家族の同意のもと職員共に予防接種を受けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理場の整理整頓・衛生管理は十分に気を配り、専任の職員が担当している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先にはプランターを置き玄関前の庭には季節感のある樹木を植えている		
81 ○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング等の共用スペースもできるだけ光を取り入れる工夫をして明るい室内としている。トイレ等のプライバシーの必要な個所はリビングより見えない場所へ設置している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	縁側・和室を含め入居者同士の関係性に配慮したソファの利用などの居場所作り		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	レースのカーテン以外は全て本人の所有物を持参していただくことにより本人の部屋らしくなっている。仏壇・写真・人形など大切なものや馴染み物を持ってきていただくことにより本人への安心感が出ている		
84 ○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室内温度を24~25度程度を目安としているが、利用者の様子をみながら温度調整をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の發揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には手すりをつけ出来るだけ自力での歩行を促している。階段は狭くすることにより両手で手摺りをつかむことができ自力での階段昇降に努めている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立て暮らせるように工夫している。	状況に応じた環境整備を行い、出来ることは自分で、出来ないことはやらせないを職員間で共有し日々のケアにあたっている	
87	○建物の外回りや空間の活用  建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭に植物や野菜を植え、景観を楽しむことや自らが手入れや収穫ができるという楽しみを持っていただいている	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者	
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある	
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者	
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者	
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③利用者の1／3くらい	
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者	
94 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者	
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族	

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③たまに
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	②少しずつ増えている
98 職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②利用者の2／3くらいが
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②家族等の2／3くらいが

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)